



川合善明市長と小野澤康弘市議の「黒い癒着」

宗教法人の土地なら税金で無償舗装！あからさまな市民差別を許すな！

**許せぬ利益供与！ふざけるな川合市長！
川合市長、小野澤市議の「おねだり」に応えるため
私道（中院所有）の舗装に税金を投入！**

市民が怒る理由とは何か？

- ① 小野澤康弘市議の実家が私道内にあり、この私道を市に税金で無償舗装させたこと。
 - ② その際、小野澤市議は川合市長との「癒着関係」を利用し、法的に無効な「工事要望書」を市に提出。
 - ③ 市長は小野澤市議の要望を受け入れるため平成22年、市建設部の方針に反した「私道舗装整備要綱」を無理矢理作成させスピード決裁。
 - ④ この「私道舗装整備要綱」は施行2年半を経た現在も事実上、市民に公開されていない。
- この4つの理由から、川越市民はいま川合市政に怒り心頭だ。

片や川越市行政の首長、片や川越市議会議員（現議長）である。行政執行機関トップと「市議会議員Ⅱ市民代表」トップが癒着し利益供与の関係にある川越市に、議会制民主主義など机上の空論だ。市長と不動産屋議員・小野澤市議が特定のスナックで酒を呑み、額を合わせ密談しカラオケに興じる姿は、これまでも市民からたびたび目撃されている。川合氏が川越市長選挙に立候補した時点、小野澤康弘市議が川合候補を熱烈に支援したことは記憶に新しい。だが両者の関係は、もはや「市長派市議」と「選挙で支援を受けた市長」の関係を大きく逸脱した、犯罪的な黒い癒着関係そのものと化した！

**小野澤市議の無謀な「私的要請」に応えるため
川合市長は市の方針を歪めてまで
誰も知らない「私道舗装整備要綱」を作成し決裁！**

市による私道の舗装について、川越市建設部道路環境整備課の方針は「私道所有者が川越市に（舗装した）私道を寄附採納することが必要条件」という「寄附採納なければ工事なし」で一貫している。

しかし「寄附採納ができない」私道所有者Ⅱ天台宗別格本山・中院の「特殊な事情」を知っていた小野澤市議は、市議としての実力を誇示し、中院にも恩を売る無謀な「市費無償舗装」を立案。私道所有者ではない市民を代表とした「工事要望書」を市に提出した。中院が私道の寄附採納不可である以上、市建設部はこんな「工事要望書」を受け付けることなどできない：はずだった。

ところが市長の「天の声」がそれを可能にした。小野澤市議の「おねだり」を叶えるために、川合市長は「私道舗装整備要綱」を建設部に作成させスピード決裁。宗教法人の私道舗装に無理矢理、市税を投入したのである！

本紙の公開質問書から逃げてばかりの無能な行政素人・川合善明市長と
「市長の側近」を自認し「友達ぶり」を誇示する不動産屋議員・小野澤康弘市議

こんな連中
市政から去れ！

「私道舗装整備要綱」のダブルスタンダードを市民にどう説明するのだ？

**宗教法人なら「市税で私道の無償舗装工事」OK！
すべては「夜の呑み友達」小野澤市議のため！**

問題の「私道舗装整備要綱」は平成22年に施行されながら、現在も一部の市議を除き、市民の誰もその存在を知らない。いわば「隠された」要綱だ。

小野澤市議の実家がある私道は中院（宗教法人天台宗）の資産。宗教法人法の関係から、中院は私道を市に寄附採納することが難しい。そこで川合市長は建設部の基本方針「寄附採納なければ工事なし」をねじ曲げ、あり得ないはずの「寄附採納が困難な場合」を想定した「私道舗装整備要綱」を建設部に作成させ、自らスピード決裁したのだ。

議会にも諮らず、行政執行部内での討論もないまま「市民資産を扱うルール」を勝手に決めた川合市長。この独善的な行為の理由はもちろん、小野澤市議の「おねだり」に応えるためだ。

中院の私道を、中院に負担をかけない方法で市に無償工事させるという、小野澤市議のとんでもない要望と、これを実現するためだけに川合市長が策定した「私道舗装整備要綱」。まさに川合市長と小野澤市議の「濃厚な癒着」が生んだ、とんでもないダブルスタンダード（二重基準）だ。

この小野澤市議への「利益供与」は、川合善明氏の市長初就任からわずか半年後に行われたのである。これは市民への背信行為・差別行為にとどまらない。他自治体にはあり得ないずさんなダブルスタンダード要綱を決裁することで、川合市長は全国に向けて醜態をさらしたのである。

小江戸川越の恥さらし！みっともない前例で

全国の地方自治体に「川越市の醜態」をさらした

川合善明市長と小野澤康弘市議は、川越市政から去れ！

行政素人の川合市長と、「市長の側近」を自認する「不動産屋議員」小野澤市議……。自治体の首長と市議会議長が、スナックで人目をはばからず卓を一つにし、酒を呑み額をつき合わせ、カラオケに興じる姿を市民の目に晒すなど、川合市長は行政トップの資格を問われて当然である。またこのことを踏まえた本紙の公開質問書から、逃げの一手の川合市長は、「私道という資産」をめぐる、一般市民と宗教法人との驚くべき差別、ダブルスタンダードを、市民納税者にどう説明するというのか？

二期目への出馬を表明した川合市長よ。「改革・公正・公開」や「正攻法」などと、青臭いスローガンで自らの無能さを誤魔化すな。二期目はもう結構。貴殿は市長の器ではない。直ちにお引き取り願いたい。

川越市議会議員は、この「私道舗装整備要綱」を市議会で取り上げよ。市長との黒い癒着で宗教法人の土地だけを市税で無償舗装させた、市議会議長の横暴を徹底追及せよ！

発行

行政調査新聞社

FAX 049-237-5432

<http://www.gyouseinews.com/>